週　報

国際ロータリー第 2660 地区

令和元年 9 月 17 日
第 2862 回例会
第 2445 号

豊中ロータリークラブ

広めよう　ロータリーの心　地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー
ROTARY CONNECTS THE WORLD

2019.7～2020.6
会　　長　松山辰男
副　会　長　矢野　昭
幹　　事　米田　眞
雑誌･広報･会報委員長
佐川正治

本日（9 月 17 日）のプログラム

「なぜ香港でデモを行なっている？逃亡犯条例と五つの要求について」

豊 中 RC 奨 学 生 ： Ting Sam Wong

次回（10 月　1 日）のプログラム

「ガバナー補佐訪問」

国際ロータリー第 2660 地区　IM 第 1 組

ガバナー補佐　田中隆弥様

池田くれはRC

☆会長の時間☆

「腹八九分目」

2019-20 年度　会長　松山辰男

貝原益軒の「養生訓」の中の原文。「腹八分目」と言い習わされている。
NHK テレビ「偉人たちの健康診断」で紹介されていた。
貝原益軒（1630-1714）は、黒田藩に仕えた医師、儒学者。
当時としては桁外れの長生きで、「養生訓」の内容を実践して、85 歳まで生きた。幼少時は病弱であったため、医学者であった父の書物を読んで育った。
39 歳の時 22 歳年下の妻、東軒と結婚、東軒もやはり病弱であったが、当時としては十分長生きで、62 歳まで生きた。すなわち、益軒だけが特に長生きの体質ではなく、養生訓の生活習慣が長寿をもたらしたと思える。
当時の庶民の食生活では「腹八九分目」で十分だったと思われるが、言いやすさも手伝って、今では「腹八分目」として伝えられている。現代の日本では、実際にはもっと控えた方が有効かも知れない。
現代医学でも、サルで飽食状態と飢餓状態で長期間飼育すると、飽食状態では一見してわかる老化が早く訪れる。
飢餓状態で働くと言われる「サーチュイン遺伝子」が老化を抑えると説明されている。「腹七分目」にすると、人でもサーチュイン遺伝子が活動し始めるという研究がある。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551　FAX 06-6857-0011
例　会　日　時：毎週火曜日 12 時 30 分より
事　　務　　局：10 時～16 時(土日祝を除く)
ＨＰアドレス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/
メールアドレス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

例 会 出 席 報 告☆

	第2861回	第2858回
例　会　日	9月10日	8月20日
①会員数 A	36	37
（内出席免除者）	6	6
②出席義務者数	30	31
③出席義務者出席数	26	15
④出席免除者出席数	4	3
⑤メイクアップ数		6
⑥出席義務者欠席数	4	16
出席率 %	88.24%	70.59%

出席率（前回）＝③+④／②+④ 出席率（前々々回）＝③+④+⑤／②+④

○幹　事　報　告○

・（公財）ロータリー米山記念奨学会より
「10月末期限カウンセラー所見の件」が届きました。
・国際ロータリー第2660地区より
「2020-21 年度ガバナー公式訪問に関するご案内」が届きました。
・豊中南ロータリークラブ
「公開例会のご案内」が届きました。

掲　示　板

・米山奨学、カウンセラー研修会
日　時：9月21日（土）　14：00～16：00
場　所：サニーストーンホテル
・豊中RC秋の親睦ゴルフ
日　時：9月23日（月・祝）　9：01am スタート
場　所：茨木国際ゴルフ倶楽部
懇親会：がんこ石橋苑　18:00～
・ガバナー補佐訪問
日　時：10月　1日（火）　例会時
場　所：ホテルアイボリー3F　例会場
・クラブ協議会
日　時：10月　1日（火）　例会終了後
場　所：ホテルアイボリー1F「かやの間」
・第4回定例理事会
日　時：10月　8日（火）　例会終了後
場　所：ホテルアイボリー　例会場
※9月24日（火）は定款により休会となります。
・豊中南RC公開例会
日　時：10月11日（金）　18：30～
場　所：ホテルアイボリー3F

○9月10日のゲストとビジター○

・楊　馳 君　　豊中RC奨学生

❀9月10日のニコニコ❀

・誕生日祝いを頂いて　松本拓朗会員
・入会記念日祝いを頂いて　岩本会員
・志水会員にお世話になりました。　北村会員
・欠席のお詫び　松尾会員

♪本日の唱歌♪

庭の千草

作詞：　里見義

原曲：アイルランド民謡「夏の名残のバラ」

掲載：　文部省音楽取調掛編纂『小学唱歌集第三編』文部省

庭の千草も　むしのねも
かれてさびしく　なりにけり
あゝしらぎく　嗚呼白菊
ひとりおくれて　さきにけり

露もたわむや　菊の花
しもにおごるや　きくの花
あゝあはれあはれ　あゝ白菊
人のみさおも　かくてこそ

唱歌担当：横田広司

唱歌担当：
・10月　1日　「お馬」　小牧義昭会員
・10月　8日　「案山子」　佐川正治会員

◎親睦委員会受付当番
10月チーフ：佐川会員
10月　1日　志水会員、松本（拓）会員
◎副幹事・副SAA当番
10月副幹事　豊島了雄　会員
10月副SAA　森本博明　会員

❀新会員のご紹介❀

〇吉川　秀樹（よしかわ　ひでき）新会員

入 会 日：R.01.09.01
生年月日：S.29.09.05
職業分類：病院経営・管理
推 薦 者：木村、松山各会員
事 業 所：市立豊中病院
総長

❀新会員のご紹介❀

〇平野　和枝（ひらの　かずえ）新会員

入 会 日：R.01.09.10
生年月日：S.50.08.21
職業分類：証券業
推 薦 者：矢野、矢口各会員
事 業 所：野村証券（株）豊中支店
支店長

吉川秀樹会員、平野和枝会員

ご入会おめでとうございます。

会員一同、心より歓迎申し上げます。

⇝9 月 10 日の卓話⇜

「日中における近代語彙の形成と交流」

米山奨学生：楊　馳

日本語では漢字語が語彙全体の 5 割を占めています。中国は無論漢字の国で、表記は漢字だけです。現在、あるいは歴史的に漢字を使用したことにより、日本語と中国語において同じ漢字で表記する語が数多く存在しています。このような語を「同形語」と読んでいます。大学、知識、国家、国会などは同形語の例です。現在、漢字の字体には、中国では簡体字、日本では新字体とそれぞれ違いも生じていますが、今の活字の字体の元に遡ると、同じ漢字が使われることになります。

同形語の由来ですが、日本語には中国の古典にある言葉がたくさんあります。そして日本で作られた漢字語、いわゆる「和製漢語」もたくさんあります。江戸中期以降、特に明治時代に入ってから、新しい漢字語がたくさん作られてきて、このような言葉は国語学界では「新漢語」と呼ばれています。なぜ、このような新漢語が作られたかですが、親漢語は西洋からの新しい概念を取り入れるためのもので、意味的特徴としては、抽象語彙、あるいは学術用語という色彩が非常に強いのです。ただし、教育の普及に従い、当時難しい学術用語も今では日常的なことばとして使われるようになりました。

では、なぜ同形語が存在するかといいますと、古典語に関しては、中国の古典から借用したことで説明がつきます。中国の典籍になかった語はどうでしょう。可能性としては、中国と日本それぞれ漢字を使いますので、言葉を作る際、偶然に同じ言葉ができてしまうことが考えられます。しかし、同形語は夥しい数にのぼっているので、とても偶然の一致では片付けられません。日中の間では大体 2000 語くらいの同形語が日常的に使われています。そのうち半分前後が中国の古典に存在しないため、全てが偶然にできているとは考えにくいでしょう。事実として、日本は新しい漢語の創出に大きく貢献したので、中国と日本は新しい漢字語の作り手です。言葉には 1 つの宿命がありまして、作られた言葉は必ず定着するとは限りません。日本では毎年、流行語大賞で話題になった言葉、残ったのはかなり少ないでしょう。そのようなことがあるので、新漢語も言語社会に如何に受け入れられたかが大きな問題になります。このように、漢字、同形語、新漢語に関しては、次のようなことが考えられます。1 つは作り出すこと、もう 1 つは交流によって、漢字文化圏に拡散し、定着するということです。

今日は共創・共有の側面についてお話したいと思います。

では、いつから、新しい漢字語が作られるようになったのでしょう。16 世紀以降、大航海時代の知識の移動に関しては「西学東漸（せいがくとうぜん）」という表現があります。西洋の学問が東洋にやってくるという意味です。その時期、大量のイエズス会士が布教のため中国にやってきました。もちろん日本にも足を踏み入れましたが、当時の日本の学問は中国から伝わってきたものに気づいたので、関心は中国に向き始めました。イエズス会の布教方針の特徴として、適応政策です。つまり中国のような古い文化・文明を持っている国に対し、現地の文化を尊重しながら、布教活動を勧めていく政策です。その内容の 1 つは翻訳です。宗教の書物だけでなく、西洋の知識が分かるような書物も翻訳しました。この経緯で翻訳された書物は前期洋学書と呼ばれています。内容的には世界地理、外国事情、天文学（てんもんがく）、数学などあります。

しかし、中国では1720年代からキリスト教の布教が禁じられるようになり、宣教師は海外に追放され、公に中国での活用が禁じられました。再び中国に足を踏み入れるのは1807年、プロテスタントの宣教師モリソンが広州に上陸したのです。百年近くの断絶を経ちました。プロテスタントの宣教師たちも数多くの書物を翻訳した。特にアヘン戦争後、翻訳・出版が活発になりました。先ほど述べました前期洋学書に対して、これらは後期洋学書と言います。後期洋学書に作られた言葉は次のようなものがあります。また、中国の人文科学の用語は非常に遅れていました。実学のほうはいろいろありましたが、哲学を始め、人文学のことば皆無に近い状態です。以上で、中国での新語創造の状況について簡単にご説明いたしました。

次は日本を見ていきたいと思います。日本では意識的な漢字語創作は、江戸中期の蘭学からと言われています。いわゆる蘭学は、オランダ語による西洋の新しい知識の取り入れです、蘭学者はまず用語の問題に出会います。本格的な新語創作は、1774年に公刊された『解体新書』からでした。ご存知の通り、『解体新書』は最初のオランダ語の翻訳書です。漢籍や漢方の用語はもうそれだけでは足りません。では、なぜ漢字で新語を作らなければならないのかという疑問が湧き出します。１つは、当時漢文が東アジアにおいて唯一の書記言語、学術言語だからです。もう１つは、漢字語の簡潔さと造語力に関係します。複雑な概念なら和語が長くなります、そして和語は圧縮がききません。例えば、「大阪大学」は「はんだい」と言います、「文部科学省」は「もんかしょう」と略称できます。

では、新語はどのように作られたのでしょうか。杉田玄白は『解体新書』巻頭に次のように記しています。訳語には３種類あります。１つは「翻訳」、漢籍にある由緒正しい言葉を訳語として用いることです。２つ目は「義訳」、漢籍の言葉が見つからない時、別途訳語を造ることです。義訳は新語を造ることに繋がります。蘭学の場合、よく逐語訳が用いられます。オランダ語では、１つの単語はそれぞれの意味に分解することが可能で、各部分に漢字を当てていくことにより、新しい語ができるわけです。杉田は「軟骨」の例をあげました。もとのオランダ語は、「やわらかい」と「ほね」の２つの部分からなります、そこへ、「やわらかい」に「軟」という字を当て、「ほね」に「骨」という字をあてると、「軟骨」ができました。「十二指腸」もそういった仕組みです。「神経」は違って、原語は単純語であり、意味のあるパーツに分解できません。そのため、いろいろ思案を巡らせ、その役割や機能を考えながら、原語の意味を端的に表せる語を考案しなければなりません。「脂肪」は中国古典では動物のことを言う言葉ですが、蘭学では、その意味を、人間を含む生物体まで拡大しました。また、蘭学者は漢字による新しい複合語だけでなく、新しい漢字も作りました。まれな例として、「腺」という字があります。にくづきに泉、生物の体内で液を分泌する器官という意味を表します。最後の３つ目は「直訳」です、発音を写す。

蘭学は幕末続き、その造語法がそのまま明治の啓蒙者に継承されました。彼らは蘭学を訳語創出法の英語の書物の翻訳に使いました。一番の原則はできるだけ漢籍語を使うこと、例えば、「革命」、中国語ではもともと王朝が交代することを意味したが，revolution の訳語にあてられ，現在にいたっています。次に、漢籍にない場合は、新語を作ります。例えば西周は「哲学」ということばを作りました。加藤弘之は「進化」という言葉を造ったのです。そして、やむを得ず音訳語を使用する場合でも、仮名ではなく、漢字で表記することです。例えば、「ソーダ」、「クラブ」、「ガス」などがあります。ちなみに、クラブはもともと「苦楽部」、苦しいの「苦」、と訳されていますが、後にこちらの「倶楽部」になりました、苦しいこと、楽しいことより、ともに楽しもうという理由でしょうかね。現代日本語語彙体系が、明治２０年頃完成したと言われています。言文一致運動や日本初の国語辞書『言海』の出版が象徴的なことです。

以下、新漢語がどのようなプロセスを経て、現在我々の使う言葉になったのかについてお話ししたいと思います。かまず中国から日本への流れが考えられます。いわゆる17～18世紀のイエズス会士たちの書物。内容は数学、天文学、地理、博物学の分野のものが多いです。その他、中国の古典、仏典、善書などがあります。

中国の禁教政策によって宣教師らの翻訳活動が低迷になり、1842 年のアヘン戦争後、翻訳と出版が再開しました。1859年から、中国の書物が大量に舶来（はくらい）されました。なぜ1859年かといいますと、日米修好通商条約の締結により、横浜港、神戸港などが開港しました。入ってきた書物は後期洋学書、そして英華辞典、新聞雑誌が加わりました。福沢諭吉など当時の知識人はほとんど英華辞書で英語を勉強しました。それから、中国で活躍した西洋の宣教師や中国の商人、外交官や文化人が日本に入ってくるようになりました。有名なヘボンも中国での布教経験をお持ちです。内容から言えば、数学、天文学、地理、博物、医学、化学など広範囲にわたります。当時の世の中の風潮として、漢学崇拝と言われる時代で、漢文を読み、漢詩を作ったりしていました。そして、蘭学の訳語を捨てて中国語の訳語に乗り換えるという訳語の交替の例も数多く発生しました。

1894年日清戦争が勃発し、中国が負けました。1895年以降、日本からいわゆる朝鮮半島、台湾、そして中国大陸に、言葉が広がっていく時代が来ました。日本の雑誌、新聞も中国に進出し、当時中国から日本へ派遣した留学生たちも、日本書の翻訳に大活躍しました。19世紀末、言葉の流れが逆転しました。

中国語では、１字の在来語に対し、同じ意味の２字語（もしくは２字語群）を用意すること。「単双相通」（たんそうそうつう）と呼ばれています。１字語だけで、口頭表現上とても不便です。つまり同音異義語が多すぎて、聞いてすぐ理解してもらえません。日本語の場合は、これまでの和語（大和言葉）に対して漢字語を用意することです。これは「和漢相通」と呼ばれています。現在、辞書を引くと日本と中国とも２字語が一番多いです。

今我々が使用している漢字語は、漢字文化圏における「環流」の結果です。中国で造られた語彙が、日本に渡って、日本で新しい学問体系に組み込まれたのち、また中国、朝鮮半島に渡り、共通の言葉になりました。総括として、まず近代における日中語彙交流は、西洋文明の受容を背景に展開された文化事象であるということです。言い換えれば、東洋が如何に西洋を受け入れたかが言語面における現れです。そして、新漢語の創造、移動、普及、定着は、中国や日本、ひいては東アジアの近代に関する記述に繋がります。